

NPOのための決算書作成初級講座in大崎

NPO法人会計基準に基づく決算書類の作成の段取りや作成方法のポイントを学びます。期末や総会前に慌てないように、正確な決算書を作成し、団体の信頼度を高めましょう！

- 日 時 平成30年1月30日(火) 13:00～15:30
- 場 所 大崎市市民活動サポートセンター 大会議室(3階)
- 講 師 小野恵子さん(会計サポーター)
- 対 象 NPO法人の理事・監事・会計担当者、関心のある市民活動団体の方など
- 定 員 20名(先着順)
- 参加費 800円(税込)

仲間の輪が広がるボランティアコーディネート講座

ボランティアを巻き込んで活動を展開するための仕組みづくりを学びます。ボランティアの受け入れ方やボランティアプログラムを見直してみませんか？

- 日 時 平成30年2月20日(火) 14:00～16:00
- 場 所 みやぎNPOプラザ 第2会議室
- 講 師 堀川晴代(みやぎNPOプラザ副館長)
- 対 象 NPO・市民活動団体のメンバー、スタッフなど
- 定 員 20名(先着順)
- 参加費 800円(税込)

レストラン、常設ショップ・ギャラリー、事務室をお貸します！

メンバーがいつでも集まれる拠点を持つことは、組織基盤の強化や活動の発展につながります。皆さんの熱い想いを実現させるため、みやぎNPOプラザのレストラン、常設ショップ・ギャラリー、事務室を活用してみませんか？

- 募集施設：レストラン、常設ショップ・ギャラリー、事務室(大)、事務室(中)、事務室(小)
- 募集団体数：各1団体
- 月額使用料：レストラン 15,400円(税込、その他電気・ガス料金は実費負担)
常設ショップ・ギャラリー 10,200円(税込)
事務室(大) 18,500円(税込) 事務室(中) 9,200円(税込)
事務室(小) 4,100円(税込)
- 使用期間：3月1日(木)から、最長3年
- 募集期間：1月10日(水)～2月16日(金)
- 申込方法：みやぎNPOプラザ窓口、宮城県共同参画社会推進課などで配布している申込書をみやぎNPOプラザへご提出ください。申込書と募集要項はみやぎNPO情報ネットからもダウンロードできます。

Nカフェ ～NPOを知ってボランティアを始めてみよう～

「特技を活かして誰かの役に立ちたい…」「ボランティアに興味はあるけど、どうすればいいの？」そんな想いをお持ちのあなた、まずはNPOで活動する人の話を聞いてみませんか？Nカフェに参加して、ボランティアを始めてみましょう！

- 日 時 2月17日(土) 13:30～16:00
- 場 所 みやぎNPOプラザ 交流サロン
- 対 象 NPOに関心がある人ならどなたでも
- ゲスト団体 仙台に夜間中学をつくり育てる会
NPO法人FOR YOU にこにこの家
NPO法人冒険あそび場-せんたい・みやぎネットワーク
- 定 員 20名(先着順)
- 参加費 700円(税込)
- 対 象 NPOに関心がある人ならどなたでも

NPOのための専門相談

※相談時間：1団体1時間程度
※日程調整の上、日時を決定します
※認定NPO法人申請相談のうち、PST判定や申請書類等の確認は有料(1,000円(税込)/回)

設立運営相談(※無料)→毎週水曜日

◎相談対応：NPO運営アドバイザー

NPOの設立や法人申請書類の書き方、組織運営や資金の確保・会計など、NPOが活動の中でぶつかる様々な問題について、乗り越えるためのアドバイスをいたします。

認定NPO法人申請相談→随時

◎相談対応：大久保 朝江（みやぎNPOプラザ館長）他

認定NPO法人制度の基礎、申請に向けての基準や申請書類の確認など、段階にあわせてご相談に応じます。

■新規のNPO法人認証団体(H29.10.11～H29.12.10)

	団体名	所在地	活動内容	認証日
宮城県等	Judo3.0	女川町	日本及び世界のあらゆる人々に対し、柔道その他の運動を通じ、文化やその他あらゆる違いを超えて相互につながる機会を創出する	10/16
	アスミック	気仙沼市	花火大会等のイベントの主催とそれに伴う事業を通じて、気仙沼市の活性化に関する事業を行い、震災による行方不明者の捜索への参加、その他災害救援活動に対する協力や地域の安全活動に参加する	10/16

	団体名	所在地	活動内容	認証日
宮城県等	スマイルむさし	登米市	介護予防事業/宅老所の運営	10/30
	ルネッサンスファクトリー	色麻町	地方における人口減少の抑止・移住定住の促進	11/14
	じゅーぴたっ	丸森町	丸森町に対する移住定住の促進/既存産業の発展、新しい産業の創出に関する事業	11/20
仙台市	おだづもっ子	若林区	食育推進事業/子育て支援事業/子どもの健全育成支援事業 他	10/12

宮城県のNPO法人数 820団体

(平成29年12月10日現在)
宮城県等所轄：407団体 仙台市所轄：413団体
※解散、所轄庁変更、認証取消、認証撤回した団体を除く

【お問合せ】

One to One

みやぎNPOフォーラム2017開催！

NPOで働く人たちのための 大交流会

未来

に向かって、語り合おう！

秋のイベントでにぎわう11月25日(土)、みやぎNPOプラザも年に一度の「NPOフォーラム」を開催しました。テーマは、「NPOで働く人たちのための大交流会～未来に向かって、語り合おう！～」です。昨年のみやぎNPOプラザ開館15周年記念フォーラムの分科会「NPOで働くということ」への関心が高かったこともあり、さらに、NPOで働くことの不安や悩みを語り合い、これからの働き方を掘り下げて考えようということが目的です。

NPOは、社会が抱える問題や課題解決に向けて活動するため、そこでの仕事を通して社会のために自分の力を役立てられるという大きな魅力があります。しかし、NPOは「資金」や「人」に課題を抱えていることが多く、それが現場の職員の負担につながってしまうことも多いのが実情です。

そこで、ミッションや活動分野は違うものの、同じNPOセクターで働く人たちが集い、NPOならではの悩みや課題、そして未来について語りました。

■問題提起「NPOで働くことの魅力と課題」

参加者が語り合う土台として、NPOを取り巻く雇用状況の共有が必要です。そこで、認定NPO法人日本NPOセンターの上田英司さんが、「NPOで働くことの魅力と課題」について問題提起しました。

内閣府が実施した、平成27年特定非営利活動法人に関する実態調査では、NPO法人の常勤の有給職員数の中央値は2人であること、また、有給職員を雇用するNPO法人は年間収益から見て2,000万円規模の団体が多いことなどが解説されました。

多くのNPOは、人材の確保や教育を課題と捉えてい

るものの、社会課題解決に取り組む組織だけに、前例がない仕事に取り組まなければならないことが多く、職員は「果たしてこれでいいのか」と不安になることもしばしばです。その時は、組織の目的に加えて自分自身の目標をつくり、そこに向かって仕事を進め、前向きに自分を評価しながらモチベーションを維持することも効果的です。

上田さんは、大学生時代に国際ボランティアに参加し、市民活動の持つ可能性に魅せられて、大学を中退しNPO法人の職員になりました。以降、企業の社会参加型ボランティア活動などの企画・運営や、高校で国際ボランティアの授業を担当するなど、一般企業ではあまり経験できない業務を通して、数値では表せない、やりがいやネットワークの広がりなどのNPOならではの働く魅力を感じたことが、現在につながっているといいます。



▲NPOで働くことの魅力と課題について考える

■ワールド・カフェ「力が発揮できる働き方を考えよう！」

参加者が所属するNPOの活動分野は様々ですが、共通点は「NPOで働いている」ということ。NPOで働くうえでの悩みに加え、どのようなやりがいがあるか、これからどのように働いていきたいかをワールド・カフェ形式で語り合いました。

ワールド・カフェは、リラックスした雰囲気の中で少人数に分かれて自由に語り合い、他のメンバーともシャッフルしながら対話を続けるため、参加者全員の意見や知識を集めることができ、あたかもその場にいる参加者全員で対話をしている感覚を味わうことができます。

悩みや課題では、「NPOがまだ社会に浸透していないから、周囲に何の仕事をしているのか理解してもらえない」「安い給料で働くことに家族の理解が得られず、将来を心配されている」などのほか、「特に研修や指導もなく、仕事をしなければならない」「仕事が多く、すぐにスタッフが辞めてしまうのが辛い」「雇用が継続されるか心配」などの意見に頷きあいました。

一方で「NPOがつくる未来の希望に向かって仕事をしたい」「若い我々世代が、次につないでいく働き方を示さなければ!」「自分自身が持続可能な働き方を模索していきたい」な

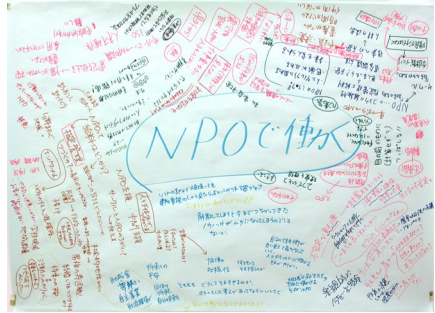
ど、NPO活動を続けるために、働きやすい環境をつくってきたいという前向きな声も多く聞かれ、上田さんからの一緒に頑張っていこうとのエールで締めくくられました。

■「働くこと」の課題に取り組む

プログラムの最後は交流会です。さらに交流を深めながら、参加者からは、「他のNPOの人と話す機会がないので、良い機会だった」「とても大切なテーマで、自分の活動を再確認するきっかけになった」といった感想がありました。

とはいえ、すぐにNPOで働くことの問題が解決するわけではありません。NPO法が施行され、NPO法人が設立されるようになった20年前には、人を雇用するNPOはほんの一部でした。NPOへの期待の高まりとともに、少しずつNPOで働く人は増えてきたものの、職員数が少ないために仕事の負担が増えたり、相談したり悩みを共有できる同僚がいない、活動への想いがあるのに離職せざるを得ないなど、働く環境をとりまく様々な問題をいかに解決していくかが、今後の課題です。

NPOが活動を推進し、社会課題を解決していくには、そこで働く人たちが力を発揮しなければなりません。今後も、みやぎNPOプラザとして継続して取り組んでいきたい重要なテーマです。



横造紙に書くことで意見を可視化

口頭の悩みや課題について語り合う



FILE-06

とめ市民活動プラザ

運営受託者：
NPO 法人とめタウンネット

市民活動団体の皆さんから「活動の機会を増やしたい」「想いや技能を地域で活かすには」などの相談時に、団体間の連携や協働の提案もしています。連携？協働？と疑問符が付く時には、『連携』は既に出来上がっているものがつながり行動すること。『協働』は企画段階からつながり同じ目標に向かって行動・共有・継続すること。またランチに例えて、Aさんが作ったカレーライス、Bさんが作ったサラダ、Cさんが作ったデザートセットにし提供するのが『連携』。Aさん、Bさん、Cさんが一緒に、食べる方をイメージし、メニューは何に、美味しくするには、カロリー

子ども防災講座
子ども防災講座



は、反省会はいつなど、話し合いからスタートするのが『協働』と説明しています。すると「協働と聞くと難しそうだけど、協力し合える団体が見つければ、あとは当たり前のことね」と皆さん笑顔に。

登米市でこの夏に「子ども防災講座」を3回開催しました。市内の市民活動団体とコミュニティ組織、市外のNPO法人、そしてプラザが協働の輪をつくり、外側には市消防本部と小学校が協力の輪となり、その中心には子ども達。目的と役割、そして成果を共有し、つながりも生まれた取組みとなりました。

協働によるまちづくりの推進を目的に設置されている、とめ市民活動プラザ。公益的な各団体の活動促進のために、1+1=3にも5にも膨らみ、結果アウトカムの要素が高まる協働の取組や仕組みづくりを、同じ目線で提案し、つなげて、サポートに努めてまいります。

(とめ市民活動プラザ マネージャー 佐藤幸広)

プロボノでつながる企業とNPOの可能性

10月18日開催 宮城県主催セミナー

「プロボノを理解しよう」～協働による地域課題解決～

東日本大震災からまもなく7年目を迎えようとしている今、被災地の復興に加え、少子高齢化や貧困などの新たな課題への対応に、行政と多様な主体との協働の推進が求められており、その連携先としてNPOへの期待が一層高まっています。しかし、人材不足や資金不足等の課題を抱えているNPOが多く、運営基盤の強化が課題です。その解決策として、社会人がそのスキルを活用して社会に貢献する「プロボノ」が注目されています。

■成功の鍵は共感と理解

NPO法人中部プロボノセンターは、名古屋を拠点に、企業等で活躍している社会人のビジネススキルやノウハウ等を活かしNPOの事業活動を向上させるためのプロボノプログラムをコーディネートしています。10月18日、プロボノについてセミナーが開催され、同センター共同代表理事の戸成司朗さんが、プロボノの意義と効果やプロジェクトの仕組みについて講演し、そのプロジェクトに参加した株式会社デンソーの戸野憲一さんから、自らのプロボノ体験談を交えた事例の発表がありました。

NPOは、「放っておけない」と思った社会の課題に真剣に取り組む組織です。しかし、意欲を持ちながらも人材や資金不足などの様々な制約の中で、組織をどのように動かし、資金をどのように確保していけばよいのかなどに悩み、思うように力を発揮できずにいる場合があります。このような組織の問題は、プロボノメンバーにとっては、業務改善や事業戦略立案などの日常業務です。プロボノプログラムは、プロボノメンバーがNPOについて理解を深め、ビジネススキルやノウハウをNPOに提供し、また、NPOはプロボノメンバーと共に、自分の組織の強みや弱みと向き合い、組織の課題を整理することから始まります。最終的には、成果物として、組織内の役割分担や日常業務の可視化、マニュアル化のほか、

ウェブサイトやパンフレット等の広報ツール等をプロジェクトに応じて完成させます。NPOとプロボノメンバーが共感し協働すれば、NPOはもちろん、スキル提供者であるプロボノメンバーにとっても、見過ごしがちな社会課題に気づいたり、自身の業務スキルの向上や異業種の仲間が出来る等、実りある機会となります。

■プロボノへの高まる期待

プロボノは、企業人がNPOを助けるためだけのものではありません。これからの企業は自社の売上だけではなく、社会の情勢を敏感に把握できる人材が求められています。そのため、このプロボノプログラムは、企業の人材育成としても大きな効果が期待されています。

セミナーの最後には、東北大学大学院経済学研究科准教授の高浦康有さんの進行でパネルディスカッションが行われました。宮城県でもプロボノの仕組みを活用した取組を行うためには、行政と地元のNPO支援組織の連携が重要との意見があり、地域に合った取組の展開への期待が高まる機会となりました。

プロボノの可能性を考える
パネルディスカッション



予告

平成29年度 宮城県NPO等の絆力を活かした復興支援事業(マッチング・交流事業)

被災地で持続可能な復興支援を行うためにNPO等と企業などがいかにタッグを組むことができるのか、事例発表と交流会を通して考えます。仙台会場では「平成29年度宮城県NPO等の絆力を活かした震災復興支援事業(補助事業)の成果報告会」も合わせて開催します。詳細は、みやぎNPO情報ネット(www.miyagi-npo.gr.jp)でご案内します。

『復興』の先を考えるミーティングin石巻 ～SDGsで見るわたしたちの地域社会～

日時：平成30年2月15日(木) 13:30～16:30

会場：石巻専修大学4号棟 4102教室・4103教室
(石巻市南境新水戸1)

対象：NPO(法人格の有無・種類問わず)、企業、研究機関、地域コミュニティ、個人など

定員：40名

『復興』の先を考えるミーティングin仙台 ～絆力を活かした震災復興支援事業報告会&交流会～

日時：平成30年3月15日(木) 10:00～16:00(予定)

会場：せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア
(仙台市青葉区春日町2-1)

対象：震災復興支援に携わる、または関心のあるNPOや企業、個人など

定員：60名

『復興』の先を考えるミーティングin気仙沼 ～SDGsで見るわたしたちの地域社会～

日時：平成30年2月19日(月) 13:30～16:30

会場：気仙沼市役所 ワンテン庁舎 2階大ホール
(気仙沼市八日町1-1-10)

対象：NPO(法人格の有無・種類問わず)、企業、研究機関、地域コミュニティ、個人など

定員：40名

主催：宮城県

共催：石巻市(予定)、気仙沼市(予定)

企画・実施：認定NPO法人杜の伝言板ゆるる

申込方法：下記連絡先へTEL・メールにて申込

連絡先：認定NPO法人杜の伝言板ゆるる

TEL 022-791-9323 FAX 022-791-9327

E-mail npo@yururu.com